ジンバブエ共和国

【国名】

●ショナ語でzimba ramambwe「大きな石の家」を意味します。マシンゴ市（Masvingo）郊外にあるサハラ以南最大の石造建築物「グレート・ジンバブエ」に由来しています。

【国旗】

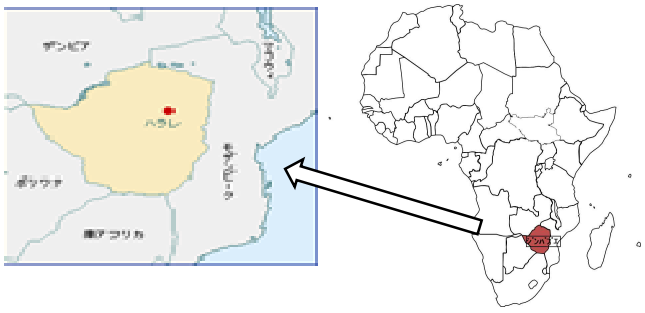
●国旗は独立と共に制定されました。緑（農作物），黄（鉱物資源），赤（自由のために捧げられた血），黒（黒人）の縞模様からなります。

ジンバブエ国旗

●左隅に国章たるジンバブエ鳥が，三角形の白地の中に赤い星を下地にデザインされています。左端の白地の三角は独立をもたらした平和，赤い星は社会主義者の希望を示しています。

【国土】

●面積は日本とほぼ同じ（約38.6万㎢）です。首都はハラレ，人口は約1,653万人です。



【多様な鉱物資源】

●ジンバブエの鉱山開発は 1800 年代後半にさかのぼり，ゴールドラッシュを背景に，英国人セシル・ローズ経営の英・南アフリカ会社が開発しました。推定埋蔵量世界第２位のプラチナのほか，フェロクロム，アスベスト，ニッケル，鉄鉱石，石炭など多様です。特に白金族（PGM）は，ロシア，南アフリカ，英国，豪州企業による資源開発が顕著です。

●日本で生産される多くの土鍋の生産過程においてジンバブエ産のペタライト鉱石が使われています。ペタライト鉱石を混ぜることによって，耐熱性に優れた土鍋ができ上がります。

【豊かな観光資源①　ビクトリアの滝】

●北米のナイアガラの滝，南米のイグアスの滝と並ぶ世界三大瀑布の一つです。ザンベジ川中流，ジンバブエとザンビアの国境に位置します。

●1855 年，英国人探検家デビット・リビングストンによって発見され，当時の英国女王の名から「ビクトリア・フォールズ」と命名され，1989 年に世界遺産（自然遺産）に登録されました。

●ザンベジ川の水は轟音とともに滝壺に落ちた後，水煙となり，高さ 150m以上も上空に舞い上がることから，現地名は「モシ・オア・ツンヤ」（Mosi-oa-Tunya：雷鳴の轟く水煙の意）です。最大幅は 1,700m，最も深い滝壺は落差が 108mあります。

●ビクトリアの滝は，ジンバブエの最も重要な外貨獲得源です。ビクトリア滝を訪れる日本人は多く，同国への日本人訪問客は年間約３万人を超えます。

【豊かな観光資源②　グレート・ジンバブエ遺跡】

●1986 年に世界遺産（文化遺産）に登録された大規模な石造建築群です。

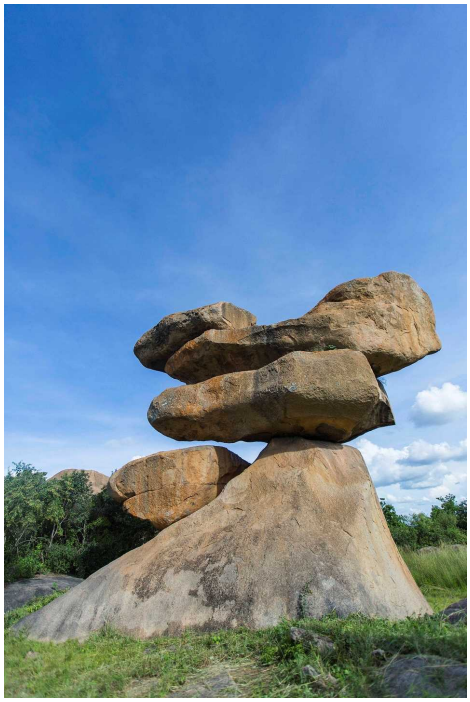
●首都ハラレから南方 300ｋｍのジンバブエ高原の南端，サビ川上流に位置します。

●11～15 世紀，同遺跡を中心に王国が支配していました。多民族がショナ語を共通言語としていましたが，同遺跡の出土品として元・明代の陶磁器，西アジア製のガラス製品，ペルシャ産の鉄器等が発見され，イスラム商人を通じ交易を行っていたと言われています。

【豊かな観光資源③　ジンバブエ・ロック】

●ジンバブエの国土は大きな岩盤（Great Dyke）の上にあり，国土の至る所に岩石（主に花崗岩）が見られます。直径数メートルの巨大な球状岩が積み重なっているバランシング・ロックは特に珍しく，首都ハラレ郊外のエプワースに散在するバランシング・ロックは有名です。

●人為的に積み重ねたかのように見えますが，一説では，26～27 億年前に形成された球状花崗岩が，長い年月で風化されたと言われています。ジンバブエの象徴としても認知されており，かつて旧紙幣のデザインとして採用されていました。



【国民性と日本とのつながり】

●空手や柔道をたしなむ国民が多く，特に首都ハラレには，現地在住の日本人が開設し指導する空手道場があります。

●1989 年に派遣が開始された青年海外協力隊の隊員を通じた交流も盛んです。隊員の教え子である女子サッカー選手数名が，同国代表チームの選手として 2016 年リオ･オリンピックに出場しました。

●ショナ語と日本語には共通する単語が存在します（日本語の「象」はショナ語で「nzou（ンゾウ）」，日本人の名字に多く見られる「田中（TANAKA）」は，ショナ語で We are fine を意味します）。

【世界で著名なジンバブエ人】

●1990年代を代表するプロゴルファーの一人ニック・プライスは，南アフリカ生まれのジンバブエ人です。1994年にはメジャー大会２連勝（全英オープン，全米プロゴルフ選手権），通算３勝を飾り，世界ランキング年間最終ランキング１位に輝きました。

●1990年代から2000年代前半にテニスのダブルスで活躍したブラック３兄弟（長兄バイロン，次兄ウェイン，末妹カーラー，長兄と末妹はダブルス元世界ランキング１位），オリンピックや世界選手権で多くの金メダルを獲得した水泳選手のカースティ・コベントリー選手（2019年５月現在，青年・スポーツ・芸術・娯楽大臣を務める）も有名です。

●肢体不自由な女性シンガーソングライターPrudence Mabhenaを撮ったドキュメンタリー「Music by Prudence」が，2010年アカデミー賞ベスト・ドキュメンタリー賞を受賞しました。

【ジンバブエの食文化】

●ジンバブエの主食は，メイズ（白トウモロコシ）の粉をお湯でついた「サザ」と呼ばれる餅状のものです。これを野菜や肉のスープにつけて食べるのが一般的です。

●牛はショナ人にとって身近な存在で，宗教的儀式・結婚式・子供の誕生・葬式等，様々な行事において食されます。また，牛は財産の象徴でもあり，社会的価値が高い家畜でもあります。

【芸術】

（1）音楽　（伝統楽器：ムビラ）

●ムビラは，ショナ人古来の民族楽器で，オルゴールの原型です。祭礼・儀式の際，先祖の霊や精霊と交信するために演奏されます。構造は，木の板の上に，細長い平らな鉄片（キー）がワイヤーとボルトで固定されており，両手の親指でキーを弾いて演奏します。

●ムビラの楽曲は 500 年前に作曲されたものが大半を占め，ムビラ奏者が代々受け継いできました。最近は，若手のムビラ演奏者が，外来音楽と融合させて新たな楽風を試みています。日本でもムビラ愛好者が増えており，ムビラを習いにジンバブエに短期滞在する日本人も増えています。

（2）美術

●花崗岩が豊富なジンバブエでは，古来より石を用いた文化が発達していますが，ショナ彫刻はジンバブエの代表芸術です。

●石の持つ自然な風合いを活かし，塗色はせず，石を削っただけのシンプルな作風が特徴です。

●代表的なショナ彫刻は全体に丸みを帯び，家族や友人との愛情や動物を見事に表現し，見る者の心を和やかにさせてくれます。

●ある有名なショナ彫刻家は，「石には霊が宿っている。私は石の余分な部分を削っているだけであり，本来の姿がそこに宿っている」と述べています。最近は，日本の美術館でもショナ彫刻の展示が増え，世界的に優れた芸術として認知され始めています。